

# イギリス庭園紹介 3

中 田 久 雄

## 中部（続）

### ●ヘリファッドシャー（HEREFORDSHIRE）

グロウスターシャーの北、西はウェールズに接し、地形は起伏に富むが標高は300メートル以下で100メートル以下の平地もある。年間降水日数はイングランドの平均値200日より少なく175日以下で比較的乾燥地である。西部よりも霜、雪日数が多く春の到来は遅く気候的にはグロウスターシャーに準ずる。

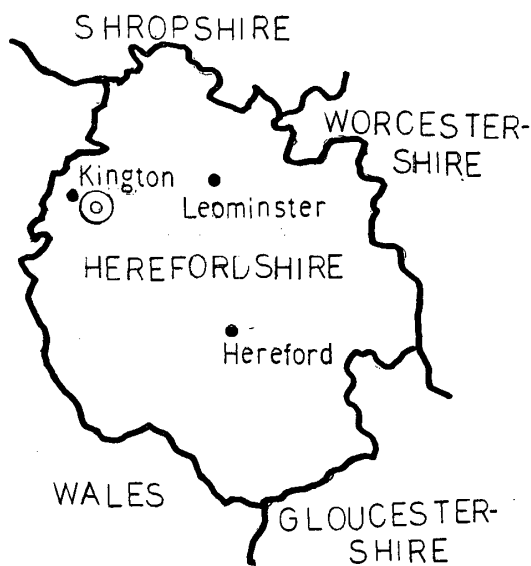


図1 ヘリファッドシャー州地図

◎ハージェスト クロフト ガーデنز

### ◎ハージェストクロフトガーデンズ (Hergest Croft Gardens)

駐車場から入口道路を進むと木立の彼方に赤煉瓦造りの瀟洒な2階建家屋が見えて来る。入口の上に1906と記された漆喰の浮き彫りの銘板があり1906年建造と判る。正面右手に温室が隣接しており、これも1906年建造であると言う。温室内には亜熱帯植物、パッションフラワー、ジャスミン等蔓性植物やブドウが植栽されている。家屋内には先代以来の東洋趣味であろうか、中国渡来の陶磁器や書画のコレクションを展示した一室がある。ガーデンフロントはローンが開け家屋に接した左手の階段を下ると狭いテラスに設えた小さな人工池の真ん中に新約聖書のローマ書の第8章の文言を刻んだ石板が建っている。テラスを進むと今は過繁茂となった旧ロッケリイの木立の中に青紫のブルーベルやその他の草花が咲き乱れている。やがて道は右折して館のガーデンファサードを垣間見ながらデイジイボーダーを進むと左手の広い放牧地へ通ずる鉄格子の門に至る。その広い放牧

地の彼方には更に広大な林地、パークウッドが続いている。右折して放牧地を見送りクロケーローンに植わった青、赤、黄色のヒマラヤンポピイやピンク色の花を着けるウツギ等を見ながら簡粗な鉄門扉を通過してアザレアガーデンに至る。この見物はイングランド最大と言われるハンカチーフの木の大木が、丁度見ごろ（5月中旬）の白いブラクトが鈴なりにぶら下がっていて、全くハンカチーフの木の名に恥じない。

館の近くに戻ると芝生の中に一寸変わった日時計が設置されて居る。時計の1から12のローマ数字を刻んだ白い石板を直径2メートル程の円周に配置し中央に南北方向に月のイニシャルを刻んだ細長い石を配し、その月の場所に立てば時刻が判ると言う趣向である。高緯度の地方では季節による日の出、日の入の方角と太陽の高度差が大きいための配慮であろう。



写真1 館ガーデンファサード：  
ハーゲスト クロフト ガーデنز

Hergest Croft Gardens, W. L. Banks

Kington, Herefordshire HR5 3EG.

Tel: (01544) 230160.

e-mail: banks@hergest. ke3ltd. co. uk web: www. hergest. co. uk

レオミンスター(Leominster)の西22.4km、A44 をキングトン(Kington)で降りて西へ800m.

開園日: 4月-10月: 毎日: 1:30-6pm

入園料: £ 3.50、16才以下無料、定期券: £ 12、20人以上の団体: 各 £ 2.75

車椅子可、軽食喫茶、トイレット、売店、種苗販売所あり。犬は誘導を要す。

## ●ウォリックシャー (WARWICKSHIRE)

ウスタシャーの東、サウスミッドランズの東端に位置し、殆ど標高100メートル以下の平地である。以下に記述するアプトンハウは東隣のオクスファッドシャーとの境にあり、郵便番号等はオクスファッドになっているが、(3)にはウスタシャーの箇所に登載されている。

### ◎アプトンハウス (Upton House)

1642年の内戦の古戦場エッジヒルに程近いアプトンの荘園は中世以来記録され、当初から売買が繰り返され、その間の経緯は別に興味ある一巻の物語になる。現在の館は1695年に建てられた物であるが、1927年から1929年の間にベアステッド伯



図2 ウォリックシャー州地図  
◎アプトン ハウス

爵家の第2代当主ウォルター サミュエルにより改装され、今日見る姿になっている。ベアステッド伯爵家は初代マークス サミュエルの父で同名のマークス サミュエルが貝殻商から身を起こし、その子マークス サミュエルが極東貿易、特に石油貿易により財を成し、第一次世界大戦に貢献した功により伯爵に列せられ、更にウォルター サミュエルは事業を拡張しシェル石油グループの総帥となった家柄である。ウォルターは絵画、陶磁器その他の重要美術品の収集家としても知られ、これらの収蔵展示を目的として館を活用した。

館の正面左手の脇から庭園に出る。館のガーデンフロントは白塗りの木製の椅子、テーブルやベンチが置かれた少々広い上段と少々狭い下段の2段のテラスからなり、各段は中央に3段程の石段と低い花壇で仕切られ、夫々草花の植え込みがある。前面には幅 100メートル奥行き 150メートル程の少々末広りの広い芝生の平面が広がり、芝生の左辺に沿って細長いロッケリイが続き各種のアルパインプランツが植え込まれ、背後には各種灌木や低木、更にその背後にイチイやマツ等針葉樹を主とした高木が防風の役目を果たしている。芝生の彼方遥かに羊の群れる放牧地が望まれるが、芝生の末端迄たどり着くと、そこは急に深い谷となって谷底にはロウズガーデンやキッチンガーデン等があり、その先は広い堀になっていて、一大ハーハを成している。かくして館からはこれらのガーデンは見え芝生と放牧地が直結している様な錯覚に陥るような趣向となっている。これらのガーデンに至るには幾段もの石段を下り、達せられる。上部急傾斜の部分は等高線方向に左右対称の手摺り付きの立派な石積みの折れ階段が設えられ、中腹以下緩傾斜の部分では傾斜方向に数段の草付き踊り場を設けた石段となっており、踊り場に接して狭い草付きテラスがあり其の端にベンチが置いてある。テラスの間は空石積み又はレンガ積みの土留めが施され、ツルバラやブドウなどが纏わり、テラスには小灌木や草花の植え込みがある。石段の間にはカンパヌラ等、匍匐性の草花が溢れている。谷底にはハーブガーデンや整形式のロウズカーデンが連なり左手奥にはイチイのヘッジ\* を介して広いキッチンガーデンがあり、各種野菜や灌木果樹が植わっている。谷の底には以前、生け簀であった堀があり、岸边にはグンネラ、プリムラ、アイリス其の他の好湿性植物が植わり、湿性庭園を成して居る。堀の対岸は低い空石積みの塀を境に草付き斜面が競り上がって広い放牧地となっている。

\*ヘッジ(Hedge)：刈り込み生け垣

Upton House, The National Trust

Banbury, Oxfordshire OX15 6HT.

Tel: (01295) 670266.

e-mail: [upton-house@smtp.ntrust.org.uk](mailto:upton-house@smtp.ntrust.org.uk)

web: [www.ntrustsevern.org.uk](http://www.ntrustsevern.org.uk)

ストラトフォードアポンエイヴォン

(Stratford-upon-Avon)の南東19.2km、

バンバリー(Ban-bury)の北西11.2km、

A422沿いに在り。



写真2 館ガーデンファサード：アプトン ハウス

開館(混雑時には時間入場券)、開園日：4月－10月：土－水曜日：2－6 pm(最終入園5:30pm)

入園料：£ 2.70、入館料：大人：£ 5.40、小人：£ 2.70、団体割引なし

車椅子一部可、軽食喫茶、トイレット、売店、種苗販売所あり

### ●ウスターシャー (WORCESTERSHIRE)

東はウォリックシャー、西はヘリファッドシャー、南はグロースタシャー、北はバーミンガムに接し、西のモルヴァンヒル、東南のコッツウォルド丘陵の間のセヴァン川流域の地溝帯をなす。



図3 ウスターシャー州地図

- ①スペチリイ パーク
- ②ストーン ハウス

#### ①スペチリイ パーク (Spetchley Park)

前項のアプトンと対称的に、このスペチリイパークは1605年以来今日に至るまで変わらずパークリイ家の所有である。現在の庭園は19世紀に造成されたヴィクトリア後期の代表的な庭園である。

門を入ると正面にマグノリアやアジサイを配した、昔農耕馬や挽馬を洗った馬洗い池が残っている。右手にツルバラや小灌木の植え込みのある小庭園を付随した瀟洒な喫茶室があり、その背後に厩舎がある。その南側に非公開の館が建っている。館を右手に見ながら広いフロントローンを横切り、広大な自然風の池の縁に沿って左折すると対岸のフロントローンの彼方に館のガーデンファサードが遠望される。池には鴨が群れ、木立の間から垣間見る館の眺めはイギリス風景式庭園の一典型で一つの見所である。池の南縁に沿って進み南端の水門から左折北上しニューローンを経てロウズローンへと進む。この辺りの芝生は遠目には黄色の絨毯を敷いた様に見え、近寄って見るとハリモクシュの黄色い花が一面に点在し、一部にデイジーが散在している。ロウズローンの奥には四阿屋風のガラスハウスがあり、その手前の芝生には、方形、長方形あるいは扇形に芝を切り取り、少しく土盛りをして夫々色別、品種別にバラを植え込んだ17個のロウズボーダーが設けられて居る。ガラスハウスの際には切れ葉のブナ、ヘテロフィーラが聳えている。ガラスハウスの背後に中心に噴水を設け、四周をイチイの刈り込み生け垣で四つに仕切られたファウンテンガーデンがある。四つの小庭園には合計36個の小花壇が設けられ草花や小灌木が植え込まれて居る。このファウンテンガーデンの端に17世紀のフランスの服装をした一対のアダムとイヴ

の像が建って居り、それに対置してバースストーン造りのアルコーヴ\* が設けられている。そのフリーズ(軒飾り)にフィッツジェラルドの訳によるオマルハイヤムのルバイヤートの一首 “The Moon of Heav’n is rising once again ……” の文言が刻まれている。

東側の雑木林を通り抜けてキッチンガーデンの東側イーストボーダーに至る。高いイチイの生け垣に挟まれた歩道の両側に草花や花木の植え込みが続く。左折してノースボーダーからメロンヤードを経て入口に戻る。ティールームの一隅には手芸品のコーナーがあり、婦人客を楽しませる。

\*アルコーヴ(Alcove)：塀や壁或いはヘッジ等の一部に凹部を造り装飾品を据えたり、ベンチを置いて休憩所にしたりする庭園造作。



写真3 池と館：スペチリイ パーク

壁龕。

Spetchley Park, Trustees of Spetchley Gardens Charitable Trust

Spetchley, Worcestershire WR5 1RS.

Tel: (01905) 345213, 345224

ウスター(Worcester)の東 4.8km、A422沿いに在り。

開園日時：4－9月、火－金曜日：11am－5 pm、日曜日：2－5 pm、

バンクホリデイ：11am－5 pm、その他の月曜日及び土曜日は閉園

入 園 料：大人：£3.20、小人：£1.60

軽食喫茶、トイレット、車椅子可

## ②ストーン ハウス (Stone House)

1974年創設のアーバスノット夫妻の手造りの庭とそれに付随した苗圃並びに種苗販売所がある。当主は建築技術に優れた腕前を発揮し、立派な煉瓦造りの胸壁付きの八角塔その他鳩舎等の庭園建築を一手に引き受けて今日の姿に成したものである。本業が種苗の生産販売でそのため庭園植栽の植物には全て名札が付されており、見本園の様相であるが、然し豊かな美的感覚を以て造園されている所に当園の庭園としての価値があると思われる。

高いイチイのヘッジで仕切られた比較的小面積の各種スタイルの庭園がヘッジの随所に開けられたトンネルを介して連続している。芝生の中にリンゴの木が散在し、一隅にベンチが置かれた閑静な一郭が在るかと思えば、一面にデイジイのべた植えの広場もあり、また両側に高いイチイのヘッジロウが続く彼方に屋上に鳩舎を乗せた塔の見える長い舗道があったりする、誠に楽しめる個人庭園である。住居の前にも両側に低い灌木や宿根草花壇を配した煉瓦道が続き、隣接

中 田 久 雄

の納屋の古い木造階段を登り詰めた二階のバルコニーから庭園全景とその彼方に麦畑を隔てて村落が遠望される。

Stone House Cottage Gardens, Mr  
and Mrs James Arbuthnott  
Stone, Kidderminster, Worcestershire  
DY10 4BG.

Tel: (01562) 69902

A448 を経てキダミンスター  
(Kidderminster) の南東 3.2km に在り。

開園日時: 3 - 9 月: 水 - 土曜日:

10am - 5:30pm、10 - 3 月: 予約に依らず

入 園 料: 大人: £ 2、小人無料

車椅子可、トイレット、種苗販売

所あり



写真4 納屋の2階から眺めた家屋と田園風景:  
ストーン ハウス

## 南東部

### ●ハンプシャー (HAMPSHIRE)

南はイギリス海峡に臨み、西はドーセット及びウィルトシャー、東はサセックス、北はバークシャーに接する地域である。チョーク (白亜層) 台地に多くの河川によって区切られた起伏に富む丘陵の間に農地、放牧地、森林等が展開する。年間日照時間は 2,000 時間に及び、年間降水量は 750 ミリメートル前後、気候温暖な地域である。



図4 ハンプシャー州地図

◎ハロルド ヒアリー ガーデنز

○ハロルド ヒアリー ガーデنز (Harold Hillier Gardens)

### イギリス庭園紹介 3

1864年にエドウィン ロウレンス ヒリアーにより種苗園として創設され、1953年にその次男のサー ハロルド ヒリアーにより樹木園が開設された。73ヘクタールの敷地に12,000種、42,000株の樹木が植栽され、1977年にハンプシャー州に寄贈され、現在は州の管理の下にある。

入口切符売り場から間もなく右折して両側には低い樹木や灌木が鬱蒼と続く草付きのホワイトゲイトボーダーが200メートルばかり続く。草付き道は更に斜め方向に右折し、1964年に種苗園創設100周年を記念して造成されたセンテナリイボーダーへと続く。

センテナリイボーダーも200メートルばかりの長い芝地の両側に樹木や灌木をバックにシストゥス、ペンステモン、フィゲリウス、アイリス、ヘーベ等が植栽されている。左手の木立の中の小道を行くと2階建て白壁の瀟洒なジャーミンズハウスに至る。ガーデンフロントから少々上り勾配の広い芝地マグノリアアヴェニューが続き、その奥まった木立の中にベンチが置かれ、そこから眺めるハウスの佇まいは見事である。ハウスに向かって右側はヒーザーガーデンと称する小高い礫地に各種のアルパインプランツが点在し、その合間に高低様々なコニファー類が植わり、その間隙に見えるハウスも又格別である。ヒーザーガーデンの奥にはユダスツリイ（セイヨウハナズオウ）や赤花のトチの大木が満開である（5月下旬）。マグノリアアヴェニューの奥の茂みの中の小道を進み簡単な木戸を開けて車の通る公道を横切り、又木戸を通してブレントリイウッドランド（樹園）に入る。此の両木戸は施錠してないので、出入り自由であり狡る（ズル）をして只で入れぬでもないが、そんな人間は殆ど無く、公德心の現れと言おうか此のあたりが如何にもイギリスらしい処で、極めて自由で且つ秩序あるお国柄を示すと言うものか。

ブレントリイ樹園にはツツジ、シャクナゲ、マグノリアの大コレクションがあり、通路の両側の色とりどりのツツジ、シャクナゲが絢を競っている。再びマグノリアアヴェニューに戻り、ジャーミンズハウスの喫茶室で休憩する。室内の壁面には陶磁器のコレクションの展示がある。一休の後ハウスの裏手のグルカメモリアルガーデンに向かう。



写真5 ジャーミンズ ハウス：  
ハロルド ヒアリー ガーデンス

グルカメモリアルガーデンは最近整備された庭園で、ネパールの植物を集

め、本事業の支援に功績のあった人々と関係の深いネパールのグルカ族を記念して命名されたものである。小さな流れに沿った谷間にネパールで直接採集された植物や原産の植物から選抜された園芸品種が3段の階段状に植栽されて居る。道は最下段の流れに沿って下り、下流の小池の周囲には水湿植物が植栽されている。此の中で特に目を引く物は所謂ヒマラヤの青いケシ、メコノプシスの仲間、青、黄、赤等のヒマラヤンポピイが見事である。谷の左岸の急斜面を登りハンプシャーの田

園風景を眺めながらモミ等の樹林を抜けてホワイトゲイトボーダーへと戻る。

The Sir Harold Hillier Gardens and Arboretum, Hampshire County Council

Jermyns Lane, Ampfield, Romsey, Hampshire SO51 0QA,

Tel: (01794) 368787; Fax: (01794) 368027

e-mail: hillarb@compuserve.com web: <http://www.hillier.hants.gov.uk/>

ラムジイ (Romsey) の南東4.8km、ウィンチェスター (Winchester) の南西14.4km、ジャーミンズレイ (Jermyns Lane) 沿い A3090 の西1.2km に在り。A3090 及び A3057 より標識あり。

開 園 日 : 12月25、26日を除く毎日開園。

開園時間 : 週日 : 10am - 6 pm、週末及びバンクホリデイ : 9:30am - 6 pm、

但し11 - 3月は5 pm 又は日没時閉園

入 園 料 : 大人 : £ 4.25、老人 : £ 3.75、小人 (5-16才) : £ 1、5才以下無料、10人以上の団体は各£ 3 (11-3月割り引きあり)

苗圃隣接の種苗販売所、軽食喫茶室、食堂、トイレットあり。ピクニック可。車椅子可。

#### ●ケント (KENT)

ブリテン島の東南端に位置し、ドーヴァー海峡に臨み、北西部の丘陵地から南東の湿地帯に向けて東西に走る地溝帯と北部海岸との間にケント丘陵 (ノースダウズ)、南西に森林地帯を擁し、その間に農地や果樹園が点在する、イギリスの庭と称される美しい地域である。

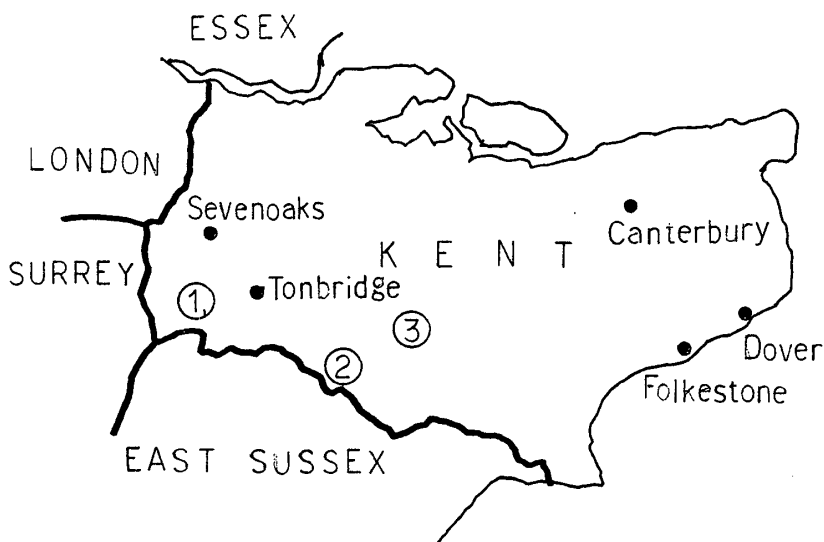


図5 ケント州地図

- ①ヒーヴァー カースル
- ②スコットニイ カースル
- ③シシングハースト カースル

#### ①ヒーヴァーカースル庭園 (Hever Castle and Gardens)

城の最古の部分は、その築城起源を1270年頃まで遡ることが出来ると言う。1642年にブリン家の所有となり、チュウダーマナーハウスが付加された。ヘンリー8世の第2番目の妃、後にエリザベス1世の母となるアン・ブリンの幼年期の棲み家として知られて居る。アンはヘンリー8世の不興を買い、ロンドン塔に幽閉の後その兄と共に処刑され、城は王家に帰属し、後にヘンリー8世の第4番目の妃、アン・オブ・クリーヴズに贈与された。アン・オブ・クリーヴズも離婚さ



れたが城はその後17年間所有を認められた。以来20世紀の初頭迄城には様々な家系が住んだ。1903年に、イギリスに帰化していたアメリカ人の百万長者ウィリアム ウォルドーフ アストーに買収された。アストーは莫大な費用と時間を掛けて城の修復と庭園の造成に努め、また城の背後にチュウダーヴィレッジを建設し現在見る如き姿にした。1983年にヒーヴァーカースルとその周辺の 1,400ヘクタールに及ぶ土地はブローランド不動産会社の買収する処となった。新所有者は前所有者の意志を尊重し、更に内容充実に努めている。

バス駐車場から煉瓦造りの入口ロッジを通り抜け広い一般駐車場の中の舗道を200メートル程行くと案内所、軽食堂、ガーデンショップ、ギフトショップのログハウスが4棟、田の字型に並び、その間を歩いて堀を渡ると左手に城が見えて来る。城までの間は大小のトピアリイ\* が並び、その彼方にアンブリンの果樹園を介して大小のチュウダーハウスが軒を連ねるチュウダーヴィレッジが望まれる。城は砦のイメージは少なく、むしろ荘園館の性格が強く現れている。僅かに矢狭間を穿った塔屋を左右に配し、落とし格子に跳ね橋を備えた楼門に城の姿を見るのみである。城の前は広場になっていて右手にイチイの刈り込みのメイズ（迷路）があり、その入口に円の中にHとA、即ちヘンリーとアンのイニシャルを表した低いツゲの刈り込みがある。このメイズはウィリアム ウォルドーフが造成したもので24メートル四方、生け垣の高さは 2.4メートルあり内部の道程は400メートルもあると言う。城の右横、堀に沿ってイチイのヘッジに囲まれた小さなアンブリンの庭がある。この中にハーブガーデンやローズガーデンがある。チェスガーデンにはチェスの駒の形に刈り込んだイチイのトピアリイがある。その前にアン女王時代の天象儀が設置されている。アンブリンの庭は当時の設計に従って造園されたものであると言う。

城の正面広場から南方に真直ぐに150メートルばかりのロードデンドロンウォークが伸びており、その末端のゴウルデンステアズと称する数段の階段を登るとテラスになっていて、其処から眺める城の姿も又一興である。ここから西方に一直線に数百メートルに及ぶアンブリンの散歩道が伸びている。この散歩道の手前の小道を下ると2人姉妹の池へと出る。この池はアンとその姉メアリに因んで命名されたものと思われる。池畔には湿性植物、池中には水生植物が繁茂している。池畔の道はやがてアンブリンの散歩道に合流し、間もなく湖水が眺められる。

湖水は14ヘクタールに及び、全て人工でその造成に 800人の人足を要したと言う。湖畔に下ると左手遥かにイタリア庭園のピアッツア（露台）とロッキア（屋根付回廊）が望まれる。湖岸の歩道を辿りピアッツアに向かう。ピアッツアは切石を円形或いは楕円形に敷き詰めて湖水に張り



写真6 ロードデンドロンウォークから眺めた城館：  
ヒーヴァー カースル

中 田 久 雄

出したテラスとし、大小の石像を配したニンフの噴水を備えている。ロッキアではこの時期（7、8月）に催される野外劇の準備に追われていた。

細長いイタリア庭園の南縁にロウズガーデン、パーゴラウォーク、ブルーガーデンが続く。煉瓦塀に囲まれたロウズガーデンには 3,000本に及ぶ様々な色彩のバラが品種別に植栽されている。その南側には多人数の客を収容出来るレストランがある。ロウズガーデンから煉瓦造りのアーチを潜り抜けると、アジサイ、ケアノトス、ワスレナグサ、ムラサキナズナ等、青を基調とした自然風の小庭園ブルーガーデンに至る。

イタリア庭園は西端がロッキア、東端が半月池に接し、南北両辺に高さ3メートルあまりの石塀を連ねた東西200メートル南北50メートルばかりの細長い芝生の中に様々な石造コレクションを配置した大庭園である。その中に、四方を高いヘッジで仕切り中心に噴水を備えた矩形の小池を配し、木製腰掛け、小花壇、日時計等を備えた静穏なオアシス、沈床園がある。

イタリア庭園の北辺の石塀はポンペイアンウォールと称し、間口数メートル或いはそれ以上の格間（間仕切り）の中にスイカズラ、クレマチス、ツルバラ等蔓性植物を始め様々な樹木や灌木が茂っている。南辺には石柱に棚材として丸太を渡した長いパーゴラウォークが続きツタ、ヤマブドウ、フジ等が見せ場をなしている。

ポンペイアンウォールの前の道を城の方へ戻ると、イタリア庭園の西端に庭園を背にして背後にカスケイドロックリイを従えた半円形の半月池があり、その前面は野球場程の広い芝地になっていて大勢の見物客を前に鷹匠が鋭い掛け声と口笛で鷹の訓練の実演を見せていた。

再び城の前に出て自家用車で満杯の駐車場を通り入口コテージに戻る。

\*トピアリイ (Topiary) : イチイやツゲ等の常緑樹を鳥や獣や球形、円錐形、円筒形等の形に刈り込んで作る造形。

Heaver Castle and Gardens, Broadlands Properties Ltd.

Heaver, Edenbridge, Kent. TN8 7NG.

Tel: (01732) 865224; Fax: (01732) 866796

e-mail: mail@HeaverCastle.co.uk web: www.heavercastle.co.uk

イーデンブリッジ (Edenbrodge) の南東 4.8km、B226を去るセヴノウクス (Sevenoaks) とイーストグリンステッド (East Grinstead) の中間点に在り。

開園日: 3月1日 - 11月30日: 毎日開園

開園時間: 4 - 10月: 城内: 12am - 6 pm

場外園地: 11am - 6 pm、場内外何れも最終入場 5 pm

11月と3月: 場内: 12am - 4 pm

場内外園地: 11am - 4 pm

入場料: 城を含む: 大人: £ 7.80、老人: £ 6.60、小人 (5-16才): £ 4.20、家族券 (大人2人、小人2人): £ 19.80

園地のみ: 大人: £ 6.10、老人: £ 5.20、小人: £ 4、家族券: £ 16.20

軽食喫茶、レストラン、トイレット、種苗販売所、売店あり。車椅子、ピクニック可。犬は飼  
い主誘導を要す。

## ②スコットニイカースル (Scotney Castle)

14世紀末(1378-80)に築城された砦の廃墟を取り込んだ風景式庭園である。この時代この地方  
に一般に行われた形式、即ち4カ所の隅櫓と、それを連結して中庭を囲む擁壁から成る升形楼門  
を有する城塞である。現在は南隅のアシュバーナムタワーと、それに付随するチュウダー調の建  
物の一部を残すのみである。その歴史は長年の間に所有者が幾人も替わり複雑である。最後の所  
所有者ハシイ家のクリストファー ハシイの死によりナショナルトラストに遺贈され今日に至っ  
て居る。

現在の景観は18世紀末、エドワード ハシイ 1世により造成開始され、後19世紀に入りエドワ  
ード ハシイ3世により、絵画派造園家のウィリアム ギルピンの甥ウィリアム ソーリイ ギル  
ピンの助言を得て完成したものである。

小さな売店を兼ねた入口コテージ  
を抜けて、草付きの緩斜面の園路を  
下って行くと、やがて城の塔屋が見  
えて来る。恰も霧雨に霞む、堀の中  
の城の佇まいは独特の幽玄の趣があ  
る。城を右にして堀端の園路を時計  
方向に廻り、ビュウル川と堀の間の  
地峡を経てヘンリイ ムア作の青銅  
臥像のある小島を左に見、右に塔屋  
を見る。ここからの城の眺めも又格  
別である。堀に沿って右折して更に  
少々大ぶりの島を経て城の前庭に出



写真7 古城と堀：スコットニイ カースル

る。そこには中央に巨大な石造の鉢を据えた円形の自然風花壇が設けられ、芝の中に各種宿根草  
が極自然に植栽されている。塔屋に付随したチュウダー調の家屋は1905年まで管理人の住居とし  
て使用されており、現在も窓ガラスがそのまま残っている。それに続く建物は屋根が抜けて石造  
の壁だけが残し廃墟と化している。城の低い囲壁にはツタやフジ等の蔓性植物が纏り付いている。  
水辺にはアシ、アイリス、等の水湿植物が生え、スイレンの葉が浮かんでいる。古城を後にメイ  
ンローンの中の斜面に付けられたライムツリイウォークを半円形のテラスの堡壘に登る。ここか  
らは満開のアザレア、シャクナゲ、日本のカエデ、カッパービーチその他の樹木や灌木の彼方に  
古城の塔屋とその彼方に羊の群れる放牧地と森が見え、イギリスの庭と言われる絵のような情景  
が現出し、正にピクチャレスク（絵画派）と呼ばれる所以であろう。堡壘の上には1837年に建て  
られた新家屋があり、今もハシイ家が住んで居るので縦覧禁止となっている。一旦メインローン  
に下り、元の道を入力コテージに戻る。

中 田 久 雄

Scotney Castle Garden, The National Trust

Lamberhurst, Tunbridge Wells, Kent TN3 8JN.

Tel: (01892) 891081; Fax: (01892) 890110

タンブリッジウェルズ(Tunbridge Wells)の南東12.8km、A21の東側ランバハースト(Lamberhurst)の南 1.6km に在り。

開園日時：古城：5月から9月12日まで庭園と同時に開場

庭園：3月4日から26日までは土、日曜日：正午－4 pm

4月（除21、23、24日）－10月29日：水－金曜日：11am－6 pm

土、日曜日：2－6 pm 何れも最終入場 5 pm

入場料：大人：£ 4.20、小人：£ 2.10、家族券（大人2人、小人3人）：£ 10.50

予約団体は週日に限り各£ 3.60

トイレット、売店あり。車椅子は一部急斜面を除き可。

### ③シシングハーストカースル (Sissinghurst Castle)

1535年にサー ジョン ベイカーが現存の楼門を建造した。それ以前の15世紀のホール、礼拝堂その他の建物は楼門前の細長いチュウダー調の建物を除き現在は消滅している。息子のサーリチャード ベイカーは16世紀半ばに入口部分以外を全部取り壊しその彼方に塔とエリザベス調の館を建築したと考えられて居る。内戦に於いてベイカー家は負け方に付いたために、多くの一族を失い、このためにシシングハーストは傾き始め次第に廃屋と化して行つた。その後7年戦争のフランス軍捕虜の収容監獄として用いられ、一時3000人の捕虜が収容されて居たと言う。1763年戦争終結時には、さしもの大邸宅も残骸を残すのみとなった。1764年その資産の購入者は塔屋、入り口部分司祭館等を残し家屋の大部分を建築資材として取り壊してしまった。その後幾多の持ち主を経て、1930年に詩人、伝記作者、小説家並びに造園家のヴィタ サックヴィル ウェストがこの地に目を付け直ちに買収し、夫の外交官、伝記作家、ジャーナリスト、政治家のハロルド ニコルソンの協力を得て家屋の修復と造園に取り掛かり廃墟同然の邸宅を現在の姿に蘇らせた。

ハロルドニコルソンの死の前年の1967年にシシングハーストカースルは周辺の 108ヘクタールの農地と共にナショナルトラストに寄贈された。

塔屋の前に建つ間口50メートル余りの2階建の長屋の中央に開いたアーチを潜り塔屋前の広場に出る。長屋はもと厩であったが、現在左半分がロングライブラリイとして4000冊に及ぶヴィタとハロルドの図書が収蔵されている。広場は一面の芝生の中に塔屋の入口に向かう石畳の歩道が付けられ、その両側に2本ずつ計4本のイチイの木が立っている。塔屋は二つの8角型のツインをなす堡塁と、それらをつなぐ部分から成る、煉瓦造りの4階建である。左側の塔には螺旋階段があり、右側の塔とその間は部屋になっており、1931年から死に至る1961年までヴィタが住んで居たそのままの姿に、数多の資料と共に保存されている。3階はエリザベス時代からの邸宅と庭園の造成経過を示す展示室となっている。屋上からは眼下に庭園の全景と遥かにケントの森林

### イギリス庭園紹介 3

地帯が望まれる。塔を降りて背後の横に広い芝生の右手に整形式のロウズガーデンがあり、様々な品種のバラが植栽されているがこの時期（5月下旬）殆どまだ蕾の状態である。この時期のロウズガーデンはむしろ、パンジーやアイリスやケアノトス等バラ以外の植物で飾られている。ロウズガーデンの先サウスコティジの脇に少々狭い、これも整形式のコティジガーデンがある。更に半円型のイチイの生け垣を背にしたテラスから数段の階段を降りてマウトウォークを経て堀に向かう。この道は巾5メートル位の草付き道で右手には色鮮やかなツツジのアザレアバンクが続き、その末端に堀が見える。敷地の東南端にやはりイチイのヘッジで囲まれた整形式のハーブガーデンがあり各種の宿根草が植栽されている。ハーブガーデンの北側に匍匐性のタイムを敷き詰めた芝地が堀に面している。敷地の東辺と北辺を境界とする堀との間の広い草地はオーチャードと称し、リンゴやナシ等のケント州に普通に見られる果樹がスイセン等の春の球根類を下草として点在している。

引き返してタワーローンの北、ヴィタが最も力を注いだと言われる著名なホワイトガーデンに至る。ここにはシロバラ、シロフジ、エルダーその他、枝垂れの柳葉ナシ等白を基調とした植物が集められている。

元に戻り長屋を出ると、長屋を背にして右手にナショナルトラストショップ、エリザベス時代の納屋、穀物倉をそのまま利用したレストラン等があり、傍らにケントのシンボルとも言うべき三角屋根の頂に白塗りの通気筒を載せたホップの乾燥小屋が並び、内部が縦覧に供されている。

Sissinghurst Castle Garden, The National Trust

Sissinghurst, Cranbrook, Kent TN17 2AB.

Tel: (01580) 712850; Fax (01580) 713911

A262沿いシシングハースト (Sissinghurst) の東1.6km、クランブルック (Cranbrook) の南東3.2kmに在り。

開園日時：4月－10月15日：火－金曜日：1－6:30pm(最終入園6:00pm)

土・日曜日及び4月2日：10am-5:30pm(最終入園5pm)

11人以上の団体は予約受付

入 場 料：大人：£6、小人：£3

軽食喫茶、レストラン、トイレあり。ピクニックは駐車場外と城館前庭。車椅子は園路が狭く凹凸があるため同時に2台に制限。折り畳み式乳母車は不可。



写真8 塔屋上より眺めたホワイトガーデン：  
シシングハースト カースル

## ●サリー (SURREY)

北はロンドン、東はケント、南はサセックス、西はハンプシャーとバークシャーに接し、大部分がノースダウンの丘陵地とウィールドの森林地帯で、テムズ川の支流ウェイ川とモウル川が北流している。

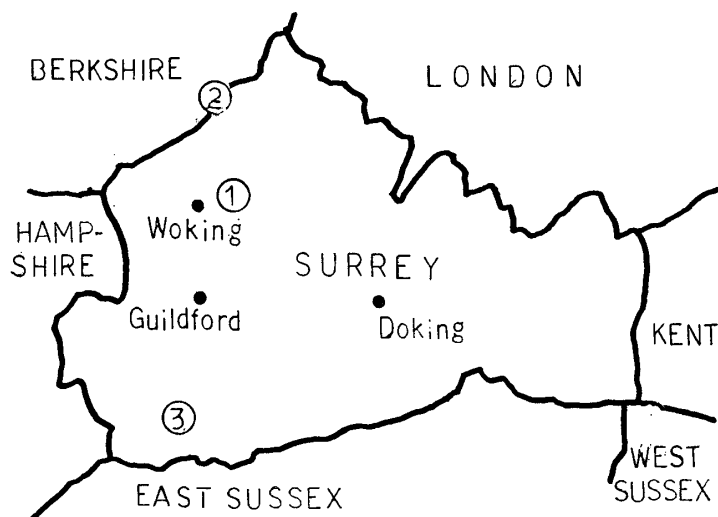


図6 サリー州地図

- ①王立園芸協会 ウィズリイ ガーデン
- ②サヴィル ガーデン
- ③ヴァン

### ①王立園芸協会ウィズリイ ガーデン (RHS Garden Wisley)

ウィズリイガーデンは1904年に王立園芸協会の園芸植物園として開設され、以後1世紀近く園芸技術の進歩発展に寄与して来た。開設当初24ヘクタールに過ぎなかったが逐次拡張され現在97ヘクタールの敷地に各種スタイルの庭園、試作見本園、研究所、図書室その他園芸技術に関するサービスの中枢として活動中である。

正面売店の隣の入口ゲイトを通り、オークの大木の下石畳を進み右折して研究棟のガーデンファサードに至る。研究棟の前面には巾10メートル、長さ60メートルばかりのカナルがあり、スイレンが植わり鯉が泳いでいる。その兩岸には平行して芝地と歩道があり、その外側は垣根を背にして長いボーダーに草花や灌木が植わっている。ここは以前温室があった場所で1970年代に温室を移転しその跡地にカナルを建設した。カナルの端、研究棟に対向してロッキアがあり、白と紫のフジが植わっている。ここからフジの花穂の彼方に水面に影を写す研究棟の眺めはウィズリイの一つの見所である。ロッキアの背後には整形式のフォーマルガーデンと煉瓦塀に囲まれたウォールドガーデンがあり、夫々、方形、三角形の一年草花壇がある。チェルシーフラワーショウの時期(5月下旬)には丁度準備中でその見事な姿は見られないが、7月上旬のハンプトンコートフラワーショウの時には見る事が出来る。研究棟の前、カナルとの間には10坪ほどの正方形のカーペットベッドがあり、色彩豊かな矮性植物を密植し、正に花の絨毯を形成している。ここも毎年デザインを変えて植え替えしているが、これもフォーマルガーデンと同様5月には準備中である。

垣根の間の小径を通り抜けるとサッカー場ほどの広さの一面の芝地に出る。その左手彼方にレストランが見える。レストランの前を通過してオークその他の大木の森の中を進み、フートパス

を越える木製の簡便な橋を渡り、ガーデンの北端、最も奥まったパイニーツムとハワーズフィールドに至る。パイニーツムは松樹園で広い芝地の周囲に各種のマツの疎林があり、その下に色とりどりのシャクナゲが花盛りである。ハワーズフィールドには、これも広い芝地の中に不整形の大小10カ所ばかりの低い土盛りのベッドを設け夫々数種類のヘザー（エリカ、カルナ等所謂ヒース）が植栽されている。レストランの前の芝地を西方へ進むと、大小二つの池があり、大きい方をレイク、小さい方をラウンドポンドと称する。何れも人工池であるが自然風に造成され護岸などは目立たぬ様簡単に施されている。レイクの周囲にはマルメロ、サクランボ、クラブリンゴ、マグノリア等が疎らに植わり、ベンチが置かれ開放的である。ラウンドポンドは周囲に樹木が生い茂っていて、ややもすると見失いがちである。池を過ぎて左手がワイルドガーデンと称し、オークやコウヤマキの巨木の下にシャクナゲ、ツツジ、フォクスグロウヴ、各種のプリムラが極自然に生育し、野趣に富んだ一郭をなす。林間を抜けると突然眼前が開け、見事な大ロックガーデンの前に出る。

ロックガーデンの手前に一段高く土盛りの見晴らし台が設えられ、ベンチに腰を下ろして見事な眺めを堪能できる。ロックガーデンの裾には大小の小池を連結した堀があり、水草の根元をクイナが遊泳している。ロックガーデンは間口 100メートル、奥行き50メートル、標高差10メートル程の斜面に石積みの不規則なテラスを設け、多種多様な山草類が植え込まれ、当然の事ながら各植物に名札が添えられている。ロックガーデ



写真9 ロックガーデン：ウィズリイ ガーデン

ンを上り詰めるとヘッジの中に左手に野菜のモデル園、右手にアルパインハウス高山植物ガラス室がある。展示室は間口4メートル、奥行き15メートル程の木骨ガラス室で腰高程のベッドに厚く砂を詰め、見頃の山野草の鉢を埋め込み、逐次入れ替えて標本展示している。1996年に改築されたランドスケイプハウスでは自然石の石組に様々な高山植物を植え込み、自然生態的な展示をしている。ハウスの周辺には傾斜地形に合わせて造成した石垣の間に咲く高山植物が溢れている。また自然石製の使い古した流し台や家畜の飲用水槽等を利用して中に山野草を植え込んだ箱庭風のトロフガーデンが陳列してある。野菜の見本園では各種野菜の新品種や作型や被覆資材の展示がなされている。

アルパインハウスから南進すると果樹見本園に至る。ここで珍しいのは果樹の壁付け栽培の展示である。南向きの煉瓦や板塀にモモ、ナシ、リンゴ、イチジク等の果樹の枝を壁付けに仕立ててある。果樹見本園の西には広大な果樹園が広がる。リンゴ、ナシその他の果樹が品種別に整然

と植栽されている。

果樹見本園の南側に温室群がある。温室主棟は室温によって3区分されている。温帯植物を収容する部屋は最低室温10℃に設定され、ハイビスカス、ブーゲンヴィレア、ストレリチア（極楽鳥花）や柑橘類その他イギリスよりも多少高温の地域の植物が収容されている。最低室温5℃の部屋には少々耐寒性に劣る植物が収容されている。最も高く設定され居る最低16℃の部屋には様々な熱帯植



写真 10 ブロードウォーク：ウィズリイ ガーデン

物が収容されている。その奥に1991年新設のシンガポール航空ラン展示温室があり東南アジア産のランや熱帯植物展示されている。主棟の奥には中央通路の左右に3棟ずつ小温室が並び各種植物の試作や季節展示に供されている。

温室から東方に緩い坂道を下る途中左右にモデルガーデンがあり様々なスタイルの庭が展示され、バリアフリーの身障者用のモデルも用意されている。さらに下ると左右に芝地のブロードウォークが伸びている。左手北方には巾10メートル、長さ120メートルに及ぶ長い芝生の両側に狭い敷石道を設け更にその外側に巾5メートルの混植宿根花壇が続き大小の各種宿根草が溢れんばかりに茂っている。南側はブロードウォークの延長の広い芝地が150メートルあまり続きその左右に高木を背景にツツジやシャクナゲの植え込みがなされているバトルストーンヒルと称する小高い丘となっている。道は次第に傾斜を増しその頂上から振り返る眺めもまた当ガーデン随一と言える。頂上の右隅にアダムエニシダ\*の高木がありその梢に先祖返りしたキバナフジの花穂がアダムエニシダの花と共に咲いているのは奇観である。丘の彼方はポーツマスフィールドと称する広い試験圃場となって居り、国道A3に接している。丘の頂上から煉瓦造りの立派な階段を下り圃場に降りると、スイートピーを始め各種野菜や草花の試作が行われている。ウィンターガーデンを経て東側の小高い丘バトルストーンイーストのシグザク道を登る。随所にツツジ、シャクナゲを始めとする色彩豊かな数多の花木類が眼を奪う。上り詰めてバトルストーンヒルからブロードウォークに出てその途中からバラの新品種を集めたバラ園、整形式のサマーガーデンを経て各種針葉樹の散在するコニファーローン或いはテラスを経て、入口ゲイトに隣接する売店を通して場外に出られる。売店では農具、肥料等を除き園芸に関する一切のグッズが所狭しと陳列され常に多くの客で賑わっている。圧巻は書籍で長い壁面一杯の書架に学術書、図鑑から読み物に至るまで園芸に関する図書がジャンル別に揃っており、目移りがして、人によってはこの売店が一番暇のかかる処かもしれない。

\*アダムエニシダ：1825年頃にアダムと言う庭師がキバナフジにベニバナエニシダを接木して造



### イギリス庭園紹介 3

った接木雑種。花色が両者の中間の橙色を呈す。

The Royal Horticultural Society Wisley Garden, The Royal Horticultural Society

Wisley, Woking, Surrey GU23 6QB

Tel: (01483) 224234; Fax: (01483) 211750

ロンドン(London)の南西32km、ギルフォード(Guildford)の北西11.2km、A 3 沿いにあり。

開園日時：3－9月：月－土曜日：10am－7pm(又は日没)

温室とアルパインハウス：10:am－4:15pm

日曜日(協会員に限る) 9 am－7 pm(又は日没)

温室とアルパインハウス：10:am－4:45pm

10－2月：月－土曜日：10am－日没

温室とアルパインハウス：10am－4:15pm(又は日没)

日曜日(協会員に限る) 9 am－日没

入 園 料：大人：£ 5、小人(6－16才)：£ 2、5才以下無料、10人以上の団体：各£ 4(小人£ 1.40)、身障者、盲人の付き添い人は無料、協会員は無料

軽食喫茶、レストラン、トイレあり。プラントセンター、売店あり。車椅子可。無料貸し出し車椅子あり。

庭園の快適さを維持するために以下の点に注意。犬は飼い主の誘導を要す。園内のピクニックは不可(林間の駐車場を利用すること)。園内はラジオ、ボール遊び禁止。

#### ②サヴィルガーデン(Savill Garden)

サヴィルガーデンの前史に関しては1740－1820年代、ジョージ2世とジョージ3世の御代、ジョージ2世の3男カンバランド公ウィリアム、その後ジョージ3世の弟カンバランド公ヘンリーの両公が荒廃したサリイの沼沢地とヒースランドを現在見るごとき壮大な風景狩猟地に変えた時から始まる。在来のはナナやオウク、南欧からのクリ等の巨木は此の時代に植栽されたものである。今日この偉大な植生が、多年に亙る自然実生も多数あろうから人為とは受け取り難い。現在の景観は1932年エリック サヴィル(Eric Savill)が副検地官として赴任して来て、数年後に御料林副管理官となり1959年までその地位に留まり、その開発改善に努力を傾注した結果である。1955年には園芸事業を含むグレイトパークに於ける多大な功績に対しエリザベス2世陛下によりヴィクトリア勲爵士に叙せられた。此れより先1951年にジョージ6世陛下の命により、ボッグ(沼沢)ガーデンをサヴィルガーデンと称する栄誉を賜った。彼は1980年ガーデンの創立50周年記念を待たずに他界した。ガーデンは彼の記念として残った。現在、王室御料地管理委員会の管理の下にある。

当初1931年迄は御料地に供給する樹木の小苗圃に過ぎなかった。最初は東北隅の現在のウィロウガーデンを手初めに着々と造成が進んだが1939－45年の大戦中は停滞を余儀なくされ14ヘクタール全域が完成したのは1950年の事であった。

入口からレストランの横を通って広い芝地の中の歩道をメインライドに出る。道は緩く下って

右のアップアーポンドから左手のロウアーポンドへ流れる小川を渡って庭園の主要部分へと続く。橋上から池の水面に映える岸辺の赤や黄色のアザレアの眺めは格別で、風景式イングリッシュガーデンの一典型を思わせる。右折して最北端の煉瓦塀を背にした高山植物のロックガーデンに至る。順次戻ってバラや宿根草の花壇、カンゾウやアガパンthusのボーダーがフォーマルな趣に整えられている。この地域の中心に低く円形に整枝したフジの巨大な一株がある。又この一隅には真っ白な満開のコトネアスターの大株が目を引く。近接して1995年新設の 650平方メートルの温室があり、枝垂れのカシミアサイプレス、木性シダ、ミモザ、エウクリフィアその他非耐寒性植物が収容されている。

メインライドに戻り巨木の林地に行く。左右に色とりどりのツツジやシャクナゲその他灌木性の花木が続く、高木にフジが攀じ登っている。最奥西北端に巾30メートル長さ 100メートル程の芝生の隅に茶庭の待ち合いの如きスタイルの木造サマーハウスが建っている。芝生を引き返し、途中二三の空地の草花を鑑賞しながら少々広い芝生を通過して小池の縁を廻りロウアーポンドに出る。橋を渡って元の広い芝生に戻る。レストランの傍らに、1986年エリザベス 2 世陛下のニュージーランド行幸に際し献上された、ニュージーランド原産の植物コレクションがある。

The Savill Garden, Crown Estate  
Commissioners

Wick Lane, Englefield Green, Surrey  
TW20 0UU

Tel: (01753) 847518

ウィンザー (Windsor) の南 8 km、A  
30 から ウィック ロード (Wick  
Road) に入り道標に従うか、或  
いは エン グ ル フ ィ ー ル ド  
(Englefield) から道標に従う。

開 園 日 : 12月25、26日を除く毎日

開園時間 : 3 - 10月 : 10am - 6 pm

11 - 2月 : 10am - 4 pm

入 園 料 : 大人 : £ 3 - 5 (季節による)、老人 £ 2.50 - £ 4.50 : 同伴の小人 (16才以下) 無料  
団体 (20人以上) 各 £ 3.30

軽食喫茶、レストラン、トイレット在り。車椅子可。売店、プラントセンターあり。

### ③ヴァン (Vann)

粗末な木戸を押して入る全くの個人庭園である。(3)には載っており入園料を取るが、案内リーフレット等依るべきものがない。

名称は 'fen' (沼沢地) から由来していると言う。家屋は煉瓦造り 2 階建、一部屋根裏部屋を含む 3 階建の瓦葺きで縦横に棟の走る複雑な構造をしている。これは最古の部分が 16 世紀に造られ



写真 11 ロウアーポンド : サヴィル ガーデン

### イギリス庭園紹介 3

逐次増築したためである。家屋はツルバラその他各種の蔓性植物が随所に絡まり、中には窓を覆い隠さんばかりの箇所もある。家屋の周囲には芝生が広がり、園内はイチイのヘッジで数箇所に仕切られ、夫々異なるスタイルに造成され、各種各様の園芸家の興味を集める様に仕組まれて居る。家屋の裏手には好蔭性植物を下植えにした石造のパーゴラ\* が池に向かって建って居る。林中の水苑は1911年に植物を提供したガートルード ジーキルの設計である。それは蛇行する水流、交差する石畳の歩道、生い茂った植物の刈り込み等で、現在は全くの自然景観である。キッチンガーデンの隅に小ガラス室がありブドウが成っていた（7月）。片隅に屋根瓦の廃材が多数積んであったが、これは石や煉瓦の間に挟んで建築材の一部に利用したり、地面に垂直方向に埋め込んで舗道にするために保管してある物である。

夕立に見舞われて、幸い家屋の近くにいたので屋内に非難したついでに家主の好意で屋内の見学も許されたのは幸運であった。屋内は現在の家主が購入後その趣味によって様々な造作がなされている。広いリビングには何処からか手に入れた暖炉が2カ所も据えられ、ディスプレイと思われるが石炭箱、火掻き棒等が備えられている。漆喰塗りの低い天井には鰻細工の複雑な模様が施されている。壁にはタペストリー、古い掛け時計、更には船舶用の巨大な晴雨計が掛かっている。壁際の床には人の背丈以上もある古い大きな時計が据えられ、テーブルの上には陶磁器がさりげなく置かれ、チェアーやソファ等々の応接セットも各種様々なスタイルのものが並び全く雑然として見えるが、それなりの家主のポリシーがあるのであろう。



写真 12 バラとツタの絡まる家屋：ヴァン

\*パーゴラ (Pergola) : 庭園造作の一つ。アーチや藤棚の様なもので下を舗道にしてトンネルにした物。

Vann, Mr. and Mrs. M. B. Caroe

Hambleton, Godalming, Surrey GU8 4EF

Tel: (01428) 683413

ギルフォード (Guildford) の南 17.6km、ゴドルミン (Godalming) の南 9.6km、A283 をワームリー (Wormley) の方へ、ハンプルドン (Hambleton) 交差点で左折ヴァンレイ (Vann Lane) に入り、道なりに 3.2km の地点に在り。

開園日：4月23日－6月の間、3－4週間（詳細は電話により問い合わせの事）、予約を要す。

入園料：大人：£2.75、小人：50p

軽食喫茶：団体は予約人数に応じて調進す。トイレットは週末のみ利用可。車椅子は場所の制限あり。プラントショップあり。

# ●サセックス (SUSSEX)

東隣りのケントと共に南はイギリス海峡に面し、海岸まで白亜のサウスダウンが迫り、白亜の上は羊の群れる草原となっている。北の森林地帯との間はサセックスの地溝帯となっている。年間降水量は 750mm 前後と少なく、特に 3 - 5 月の間は最も乾燥する。気温の日較差は変動が大きい。現在行政区画はイーストサセックスとウェストサセックスの 2 州に分かれている。

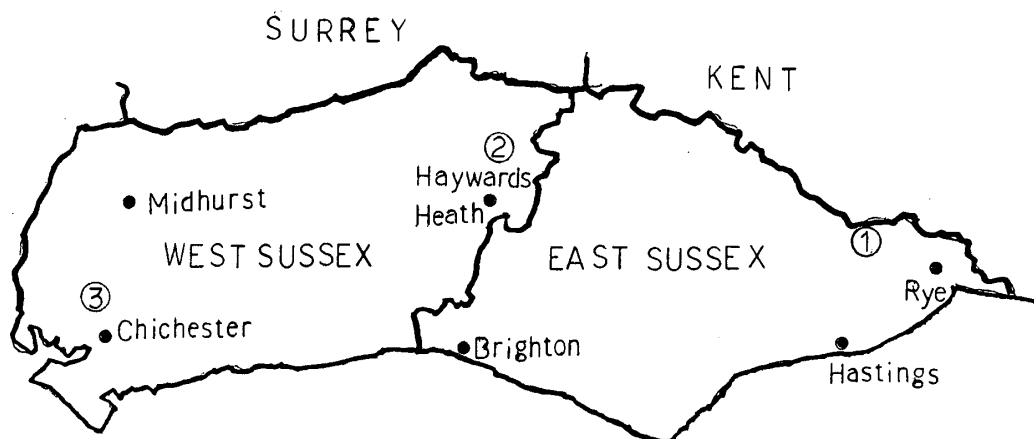


図7 サセックス州 (東西) 地図

- ①グレイト ディクスター
- ②ウェイクハースト プレイス ガーデン
- ③ウェスト ディーン ガーデنز

## ①グレイト ディクスター (Great Dixter)

現在の家屋は、15世紀建造の廃屋を1910年、好事家のナサニエル ロイドが買収しエドウィン ラチェンズに依頼して復元、増築したものである。本館正面右半分が原初の部分で、壁面の軸組は筋交いなしの直立の柱を密に並べただけのハーフティンバー造り\*、玄関の柱等は少々傾いている。左半分は煉瓦色のタイル張りである。内部はクラック工法\*\*に依る重厚な木組みが見事である。窓ガラスは方形の小片を鉛で繋ぎ合わせた、板ガラスの無い時代の伝統的工法によっている。



写真13 ハーフティンバーの家屋：  
グレイト ディクスター



写真14 サンケンガーデン (沈床園)：  
グレイト ディクスター

### イギリス庭園紹介 3

家屋の左手にはイチイを刈り込んだクジャクのトピアリイが18基方陣に並んでいる。家屋の右手前には納屋とヘッジに囲まれたバーンガーデンがあり、各種草花の混植花壇が設けられている。その内側が沈床園となっており、その中央に8角形の、石で縁取った小池の中に水草やスイレンが植わっている。旋風除けのために壁で三方を囲ったウォールドガーデンには数種のシダ植物が植栽されている。そこを通過して家屋の裏に出ると細長い以前の畜舎を背にして、イチイのヘッジで囲まれた旧バラ園がある。バラの連作障害のため、現在はダリア、カンナその他亜熱帯風効果をねらって日本のパシヨウ等も植栽されている。バラ園を抜けて家屋の方へ戻ると円形の3段の石段が3カ所設けられ、更に半円状の石段を登ると家屋の裏に出る。階段の傍らにはクワの大木が1本建っている。右手にはイチイのヘッジを背にして色彩豊かな様々の草花や灌木の植わった長いロングボーダーが続く。イチイのアーチを潜ってハイガーデンに至る。ここはエドワード時代のキッチンガーデンの様子を摸している。狭い歩道に沿って棚仕立ての果樹が野菜畑を仕切っている。歩道の周囲には淡いピンク色のアジサイやオリエンタルポピー、ルーピン等も際立っている。ここからヘッジやトピアリイ越しに眺める家屋の佇まいもまた良い。

此の庭園の植物には園主の主義に従って一切ラベルが付されて居ない。その理由は：

1. 私個人の庭園であり、植物園やナショナルトラストの如き義務は無い。
2. 私は名札を見るのは共同墓地の様な気がして嫌だ。
3. 植物目録を作り、ラベルに書き、それを設置するための時間と材料の浪費である。
4. 公衆は読むためにラベルを抜いても、元の場所に正確に戻すとは限らない。
5. その場所を覚えようとするよりも一寸ハンドバックの中へ入れるほうが楽だ（イギリスにも不心得者がいるのか？我が国の花泥棒の心境か？）。

\* ハーフティンバー造り (Half timber) : ヨーロッパ木造建築の一構法。柱や筋交い等の軸組を外面に現し、その間を漆喰等の壁材で充填し、壁面に木材と壁材のパタンを表現した工法。

\*\* クラック工法 (Cruck) : 湾曲した大木を半割りにした部材を合掌に組み、梁や棟材で繋いで行く一種の合掌造り。

Great Dixter, Christopher Lloyd and Olivia Lind

Dixter Road, Northiam, Rye, East Sussex TN31 6PH.

Tel: (01797) 252878, Fax: (01797) 252879

e-mail: [greatdixter@compuserve.com](mailto:greatdixter@compuserve.com) web: [www.entertainnet.co.uk/attractions/htm](http://www.entertainnet.co.uk/attractions/htm)

ヘイスティングズ (Hastings) の北16km、ノーシャム (Northiam) の北 0.8km、ノーシャム郵便局の前で A28 から分岐せよ。

開園日：4 - 10月中旬、月曜日（バンクホリデイを除く）を除く毎日開園

開園時間：2 - 5 pm

入場料：庭園と家屋：大人：£ 6、小人：£ 1.50、団体 (25人以上予約)：各大人 £ 5、小人：£ 1.50

庭園のみ：大人：£ 4.50、小人：£ 1

軽食喫茶、トイレット、売店あり。車椅子、ピクニック可。

中 田 久 雄

植物販売はナーセリイに於いて行う。Tel: (01797) 253107

ナーセリイ開設日時: 4-10月: 毎日(日曜日も含む): 9-12:30am, 1.30-5 pm

10-4月: 週日: 9-12am, 1:30-5 pm

日曜日: 9-12:30am

## ②ウェイクハースト プレイス ガーデン (Wakehurst Place Garden)

この地はノルマン時代からの記録があるが、現在の館は1590年に著名な本草学者ニコラスの遠縁のエドワード カルペッパーによってサセックス砂岩を用いて建てられたものである。その後多くの持ち主や住人を経て、この地所は1903年ジェラルド ロウダー(ウェイクハースト卿)が買収した。彼は33年を費やして庭園の造成に努めた。事業はサー ヘンリー プライスが請け負った。現在の所有者はナショナルトラストであるが1965年以来、王立キュー植物園の分園として運営されている。館はシードバンクとして世界各地の植物種子の収集保存の事業に当てられている。

標高差70メートル、面積70ヘクタールに及ぶ地形変化に富む敷地は夫々の地域に応じた植生配置の庭園植物園として多くの人々を引き付けている。駐車場から林地の中の長い進入路を辿って前面に広い芝生を設けた館の前に出る。館の手前南に自然風の池がありその傍らに小高く土盛りしたトニイシリング エイシアンヒースガーデンがあり、ヒマラヤ、台湾、韓国、日本等のアジア原産の矮小灌木を地域別に植栽している。矮性シャクナゲ類、ベニシタン類、キンバイ類、ビャクシン類その他がロックガーデン風に配置されている。此处から池に影を写す館の眺めは絵の如く美しい。館の西側の広い芝地の奥には南半球の植物が集められ、チリアンファイアブッシュの真紅の花が目立つ。この近くに直径、高さ各々5メートルほどに鉄骨を組み上げたアーチにフジとキングサリを絡ませ、中にベンチを置いた円形パーゴラがあり一寸珍しい。またウェディングケイキの木やピエリスの新緑も美しい。館から真南に向かったメインロードを進むとテラスがあり、その下は急な断層になっていて、池からの流れが小滝となって落ちており、更にウォーターガーデンを経て深い谷となり、終にウェストウッドレイクに達している。テラスの左脇の急斜面の坂道をウォーターガーデンへと下る。この崖はスリップス(断層)と称しマグノリアやピエリスの下生えに野生ランを始めとする野草が春から夏にかけてが見頃である。ウォーターガーデンは水湿植物の豊富なコレクションとヒマラヤの青いケシのグループが生育している。ウェストウッドヴァレイの兩岸には東アジアの植物、特にヒマラヤのシャクナゲの大木が赤、白その他色とりどりに輝いている。その下のベンチに腰掛けて、谷の景色を飽かず眺める老婦人の姿も又一幅の絵である。この谷沿いの一角にはハンカチーフの木の大木があり、丁度白いブラクトが見頃である。谷は益々鬱蒼となり、やがてレイクに達する。湖畔の粗末な掛け小屋に一休すれば、人の気配は全く無く、湖面は陽光に映える周囲の木々の新緑を映し、幽玄世界の趣きに浸る。

レイクを一周して帰路は谷の右岸を辿り途中から急な斜面のジグザク道をヒマラヤングレイドと称する山道に差しかかる。ここは急斜面の登り下りが連続し、ネパールの山道のトレッキングを想定して造成したと言う。途中満開の白花のコトネアスタの群落が見事である。道はやがて平坦な林間を抜け広大な芝地を通過して南半球庭園を抜け、館の前になる。



写真15 館と池：ウェイクハースト プレイス



写真16 ウェディングケーキの木：  
ウェイクハースト プレイス

館の北西隅には煉瓦塀の中にキッチンガーデンとその奥にイチイのヘッジで仕切られた整形式庭園がある。

Wakehurst Place Garden, The National Trust

Ardingly, Haywards Heath, West Sussex H17 6TN

Tel: (01444) 894066

e-mail: wakehurst@kew.org web: www.kew.org/wakehurst

ロンドンから順次 A(M) 23, A272, B, 2028 又は A22, B2110 を辿り、ヘイワーズヒース (Haywards Heath) の北 8 km に在り。

開園日：館の一部と庭園は通年毎日公開（クリスマスデイと元日を除く）

開園時間：2月及び10月：10am－5pm、3月：10am－6pm、4－9月：10am－7pm：最終入園は閉園30分前、館は閉園の1時間前に閉館。

入場料：大人：£5、老人、学生：£3.50、小人（5－16才）：£2.50、家族券（大人2人と小人4人）：£13、5才以下無料

レストラン、トイレット、売店、プラントショップ（夏季）あり。車椅子可。ピクニック可。

### ③ウェスト ディーン ガーデنز (West Dean Gardens)

本庭園の前身は1622年の荘園館の開設に始まる。1768年の初期の図面には家屋に隣接して菜園が示されている。現存のレバノンスギやリンデン（菩提樹）の巨木はこの時代のものである。現在の館は1804年に初代セルシイ男爵ジェームズ ピーチイによる建築である。1891年にウィリアム ジェームズがこの資産を購入、拡張し館の一部を改修した。また庭園は館の建った1804年に整備され、ブナ、リンデン、トチ、プラタナス等はこの時期の植栽で、狩猟地や庭園の配置等現在の姿となった。1964年に家具や絵画の膨大なコレクションを含む館を始め庭園、農地、森林、放牧地、狩猟地その他、締めて2400ヘクタールに及ぶ全財産を以てエドワード ジェームズ財団を設立し教育的慈善事業財団として公認された。本財団事業の主目的の一つにエドワード ジェームズの意志による伝統的美術工芸技術の伝承がある。

約12ヘクタールの現在の庭園は四角張らぬ19世紀風の趣を残している。然し曾てウェストディーンの際立った特徴であった樹木の見事なコレクションは近年に至り、干ばつ、病害、更に1987年と1990年の2度に亘る強風のために著しく憔悴した。この災害を改善、改植の好機とし、以て災いを転じて福となさんと鋭意努力中であると言う。

当地は海拔73メートル、平均日日照時間 4.5時間、年間降水量1000ミリメートルで東部より少々多い。土壌は肥沃であるが、少々アルカリ性で好酸性植物には不向きである。

入口ヴィジターセンターは1995年新築のフリント（火打ち石）と赤煉瓦造りの、駅舎を思わせるような美しい建物で、切符売り場、売店、レストランがあり、ここまでは出入り自由である。ゲイトを出たすぐ左手の煉瓦塀にはイチジクの壁付け栽培がなされている。暫く行くと左手に小川が流れ小さな橋が掛かり、野鴨の番が泳いでいる。その彼方には広い草地が広がり、更にその先はなだらかな丘になって羊の群が草を食んでいる。丘の上には広い林地が見える。橋を渡らずに右折して煉瓦とフリントの塀に囲まれたウォールドガーデンに入る。ここは1ヘクタールの広さがあり、果樹園と野菜園に当てられている。手前南側が果樹園で、リンゴ、ナシ、ブドウ、モモ等の数多の品種の見本栽培がなされ、南面の塀にはモモの壁付けがなされている。塀を潜ると温室群が建ち並び、ブドウ、モモ、イチジク、キュウリ、メロン等が栽培されている。温室群の奥は東西に伸びるナシのアーチの両側に各種露地野菜が見られる。これらのキッチンガーデンはグループ毎に低いツゲのヘッジで囲まれている。

ウォールドガーデンを出て右側に進み、メインロードを横切って灌木の茂みの中の小道を行くと沈床園に至る。緩い傾斜地を少し掘り下げて水平とした20メートル四方形の地面に、中央に芝生を設け、四隅に大小不揃いの方石積み花壇を設け、周囲を矮小灌木や草花で彩りを添えた非整形式小苑である。その奥の草付き緩斜面に藁葺きの小さな四阿屋があり、そこに腰を下ろして沈床園を見下ろし、更に遥か彼方の羊の群れる丘陵を眺める趣向である。

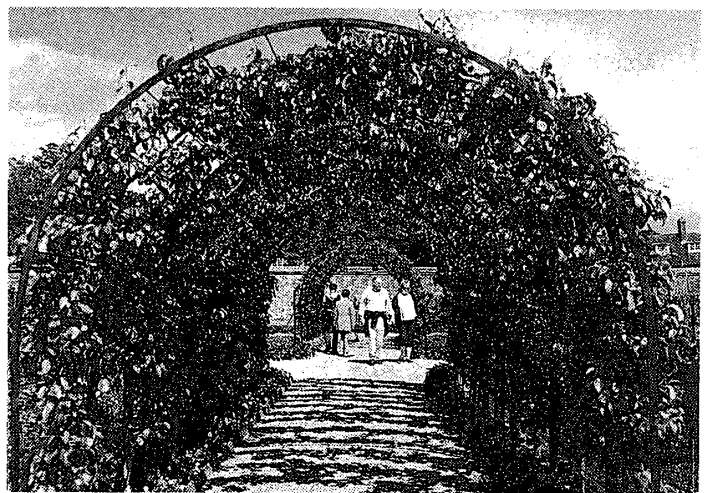


写真 17 ナシのアーチ仕立て：ウェスト ディーン

沈床園の西側には東西に 100メートルも伸びる長いパーゴラがありフジ、ツルバラ、スイカズラ、クレマチス等が攀じている。ここはパーゴラを舞台に屢々野外劇が催される処で、丁度その練習が行われていた。パーゴラの西端のガゼボを出て、小道を下って行くと右手に教会と墓地があり館の裏手に出る。教会と館の間を抜けると南に広い芝生、北に東西に伸びる長いテラスがあり、その最上段に小葉のリンデンの並木があり、下段には1898年の設計によるヴィクトリア調花



### イギリス庭園紹介 3

壇が再現され、土手の上の草地は野生のタイム、キバナノクリンソウ、フランスギク等の野草の群落が興味を添えている。

テラスの西にスプリングガーデンとウォーターガーデンが続き、泉から湧き出した水が細流となりウォーターガーデンの水湿植物を潤し、やがてヴィジターセンターの横から流れてきた小川に合流しているが、この細流は夏になると地下水位が下がって涸れてしまうと言う。ここには竹類やシュロ等中国産植物が集められている。その他トチ、マグノリア、リンデン、カエデ等の樹木も見られる。ここは又四方八方に小道が分かれ、藪の中の散策を楽しむことができる。

その先には先年の嵐に荒らされた樹木や灌木のコレクションの再生を目指しているワイルドガーデンがあるが、時間的制約のために引き返さざるを得なかった。草付きの木立の中を川に沿って戻ると、橋があり、渡れば放牧地の丘の上に続く広大な樹木園を廻ってヴィジターセンターに帰るパークランドウォークがあるが、行程 3.6キロメートル、一周するのに1時間以上かかると言う。橋を渡らずにメインロードを館の正面に出る。

館はやはりフリントの石造2階建（一部3階）の堂々たる邸宅で現在は財団の経営する伝統工芸技術の教育施設に供されている。館前の車回しの広場の両側には芝生にタイサンボク、アジサイその他の灌木や草花が植わっている。メインロードを隔てた広い芝生では親が付ききりで子供にクリケットの練習をさせていた。何れしかるべきパブリックスクールに進学する良家の子弟であろう。

メインロードから東側のイーストロウンの中の小道を辿り、入口ヴィジターセンターへと戻る。

West Dean Gardens, Edward James  
Foundation

West Dean, Chichester, West  
Sussex PO18 0QZ.

Tel: (01243) 818210,

Fax: (01243) 811342

e-mail: westdean@pavillion. co. uk

web: www. westdean. org. uk/



写真18 クリケットの練習：ウェスト ディーン

チチェスター(Chichester)の北 9.5km、A286ミッドハーストロウド(Midhurst Road)の南西側にあり。

開園日：3－10月：毎日開園

開園時間：3、4及び10月：11am－5 pm、5－9月：10:30am－5 pm（最終入園：4:30pm）

入園料：大人£4、老人（60才以上）：£3.50、小人：£2、20人以上の予約団体：各£3.50  
軽食喫茶、レストラン、トイレあり。車椅子、ピクニック可。犬不可。プラントショップ、売店あり。

参考文献

1. Bond, J. D. : The Savill and Valley Gardens. The Savill and Valley Gardens. 1991
2. Burkeley, R. J. : Spetchley Park Garden. Spetchley Park and Jarrold Publishing. 1991.
3. King, Peter : The good gardens guide 2000. Bloomsbury Publishing Plc. 2000
4. Lacy, Stephen : Gardens of the National Trust. The National Trust Enterprises Ltd. 1997
5. The National Trust : Scotney Castle. -----, 1992
6. -----: Sissinghurst Castle Garden. -----, 1991
7. -----: Upton House. -----, 1991
8. Pierce, Pat : Wisley. The Royal Horticultural Society. 1994
9. Sharman, Fay : Wisley Garden. -----, 1990
10. Historic Houses & Gardens. Norman Hudson & Company. 2000
11. 各庭園案内リーフレット及びパンフレット